http://decfamily.p1.bindsite.jp/2013NEW/

We 25R

No.197　03/05/08

土曜講習？

土曜講習の申し込み書が配布されたので、どうしようかなぁと考えている諸君も多いことだろう。私のところにも、何人かの生徒が講習をとるべきかどうか相談に来ている。

全体として言えることは、講習の回数は限られており、実施予定日もとびとびだったりするために、講習に出たからといって、すぐに思った通りの実力がつくかというと、なかなかそう簡単にはいかないということである。講習を足場として、どれだけ自分で自律的な努力が継続できるかに成否がかかっているのである。

各教科の先生方は、日常の授業を100％こなせば、十分に難関大学の入試にも対応できる実力を養う授業を展開なさっているし、君たちには授業の他にこなさなければならない副教材が手元にあるはずだ。だから、土曜日の活用法としては、先ずは授業の予習・復習がきちんとこなせているのか、さらに、計画的に考査に向けて副教材をマスターできているのかどうかを確認すべきだろう。それが不十分であるとすれば、先ずはそれを完璧にするために土曜日を活用した方がよい。

周囲が講習に参加したりすると、ついつい「自分も…」と思ってしまいがちだが、勉強は結局は自分がするものであって、他人のペースに合わせてやっていくものではない。先ずはそのことをしっかりと認識しよう。

では、我々は今年どんな主旨で土曜講座を設置しているのか、国語科を例にして説明してみよう。

●基礎＝授業中に、先生が質問する事項、例えば、「この動詞の活用の種類は何ですか？」とか、「この形容詞は何形ですか？」、あるいは、「この助動詞の意味は何ですか？」といった内容について、「これは指名されると困るなぁ…」と感じる場合が多い人向けの講座。授業を大切にしてもらいたいが故に、授業についていくことができなくなって困っている人をなくそうというのがそもそもの趣旨で、漢文の訓読も視野に入れながら、主として古典文法の復習をする。

●応用＝授業の内容は理解できるし、予習・復習もこなせているという人に対して、授業よりも少し高度な内容、具体的には、大学の入試問題を題材にして、基本的な語彙・文法（句法）・古典常識の知識をリンクさせながら、初見の問題に取り組む力を養うということを目標として実施する講座。

一年次には、古典は全員が同じスタート地点から学習を開始する（中学校の貯金がない状態でスタートする）ので、土曜講習では、「以後の授業をリードしてくれる存在をつくる」というのが設置の主な趣旨であった。入試レベルまで…とはいかなくとも、授業の予習的な内容を取り入れることで、以後の授業内容を高いレベルで維持し、学年全体で実力を向上させてほしいと願ったわけである。

一方、２年生になると、さすがに得意な人と不得意な人が出てくる。今年は、その両極端、つまり、授業だけではカバーすることが難しい層を対象として講習を設定した。

英語・数学も同じ趣旨であるが、詳しくは各教科の先生方に相談しよう。